

音韻学、訓詁学と語源探求

講演者： 史傑鵬 氏

(東京大学東洋文化研究所訪問研究者)

日時： 2019年7月6日(土) 13時30分～15時00分

場所： 関西大学 千里山キャンパス 以文館4階 セミナースペース



史傑鵬、1971年生まれ、中国江西省南昌市出身。北京大学、北京師範大学にて、文字学専攻、文学博士。主な研究領域は、古文字学、訓詁学、語源学及び上古（秦漢）古文献学。これまでに学術論文を50篇以上発表している。助教授として北京師範大学にて長らく教鞭を執ったのち、現在は東京大学東洋文化研究所の訪問研究者である。

訓詁学は古文字を解読する重要な学問である。世界のすべての文字は、言語を記録するものである。或いはその本質は、音声を記録するものであると言えよう。言語の秘密は全部その音声に潜められている。中国語も例外ではない。中国語を記録する漢字は、ある意味では音声記号である。つまり中国古代の文献を解読するには、古代の漢字の発音を知らなければならない。その発音は、どの語を表しているのかを知らなければ、正確に意味を理解することはできない。それ故に、訓詁学をマスターするには、まず音韻学を身につけなければならない。理屈的に言えば、同じ発音をする漢字は、同じか、近い意味を持っていることになる。その音が記録しているのは、いわゆる同源語である。同源語を分析することにより、古典中国語の意味を深く理解することができる。発音を手がかりにすれば、多くの難問も解決できる。

講演は中国語による。